

短 報

メダラの学名 (常谷幸雄)

Yukio JOTANI : The Name of Less Prickly Form of *Aralia elata* (Miq.) Seem.

本誌62巻で山崎敬博士はメダラをタラノキの品種とし、その学名を *Aralia elata* f. *canescens* (Fr. et Sav.) Yamazaki とした。しかし、この学名は Siebold と Zuccarini が原著者であり、Franchet と Savatier による命名と見なせず、しかもそのタイプはタラノキであり、この学名をメダラに用いることはできないと考える。

Franchet と Savatier は、*A. spinosa* L. β. *canescens* の発表に際し、*Aralia canescens* Sieb. et Zucc. Fam. nat. n. 419 として、Siebold と Zuccarini の学名を異名に引用している。従って、Franchet と Savatier が発表した学名は、記載を伴うものの、明かに新組合せである。

Aralia canescens Sieb. et Zucc. は、記載の一部に、foliolis subtus canescenti-glaucis ad venas pilosis とあるなど、原 寛博士が結論したように、その正体はタラノキそのものと考えられる。

他方、Franchet と Savatier が記載した植物はメダラにあたる。大井博士は、この Franchet と Savatier の変種名を出発点に、*Aralia elata* var. *subinermis* Ohwi の新名を発表した。Siebold らや Franchet らが用いた標本の検討が残るが、暫定的にはメダラには大井博士の名を用いるのが適切である。

Franchet と Savatier はメダラの記載で *Nippon media*, ad Yokoska とシーボルトによる産地不明の標本を引用している。なお、Franchet と Savatier が、*Aralia spinosa* a. *glabrescens* の発表に引用した3点の標本中の1点も横須賀産 (Savatier 採集) である。この学名に該当するのはタラノキであり、横須賀にはタラノキもメダラも産すると彼らはみていたことになる。

実際、横須賀には Franchet と Savatier によるメダラの前記載に一致する個体があり、1959年には本田正次博士とともに採集した。

Aralia elata (Miq.) Seem. f. *subinermis* (Ohwi) Jotani, stat. nov.

Aralia elata (Miq.) Seem. var. *subinermis* Ohwi [Fl. Jap. 829 (Mar. 1953), nom. nud.] in Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, No. 33, 80 (July 1953).

A. spinosa L. β. *canescens* Fr. et Sav., Enum. Pl. Jap. 1 : 192 (1875), excl. basionym.

A. elata (Miq.) Seem. f. *canescens* (Fr. et Sav.) Yamazaki in J. Jpn. Bot. 62 : 190 (1987), cum basionym. perperramut "*A. elata*" β. *canescens* Fr. et Sav.

(東京農業大学)

宮城県内のマツバラ (竹原明秀^a, 伊藤 聰^b)

Akihide TAKEHARA^a and Satoshi ITO^b : Distribution of *Psilotum nudum* in Miyagi Prefecture

我国におけるマツバラ (*Psilotum nudum* (L.) Griseb.) は関東南部以西の本州・四国・九州の暖帯林にまれに生育している。宮城県では佐々木・上野 (植研, 48巻204頁, 1973) によって石巻市桂島が随一の生育地であり、本種の北限地であると報告されている。当地において、発見

当時 (1972年)、確認された個体はわずか1個体のみで、その個体は採集され、標本として国立科学博物館 (TNS) に納められている。その後、数回の現地調査にもかかわらず、本種の生育は確認されておらず、消滅したものではないかと考えられてきた。